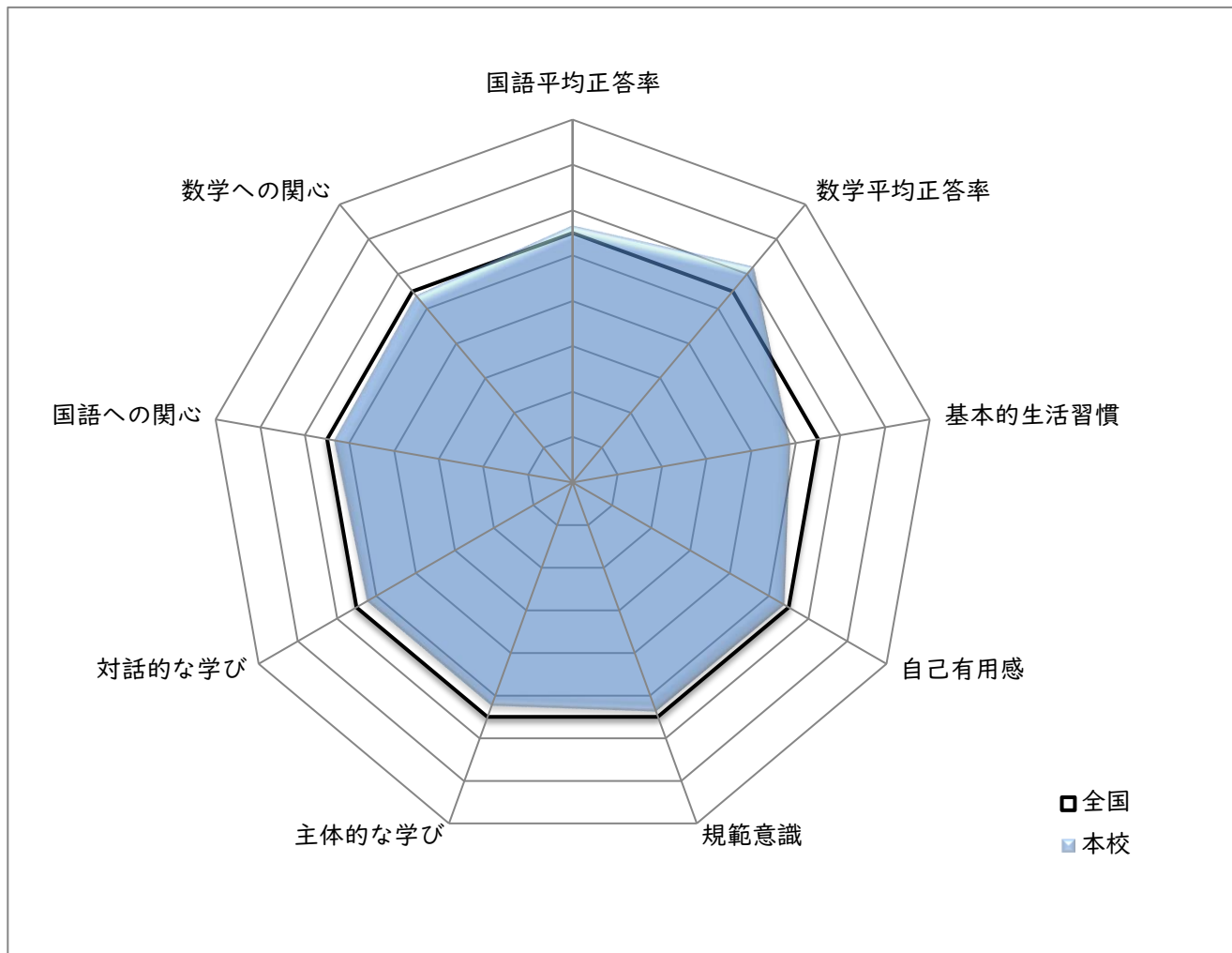


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。《現状把握》



【数学】
A・B層の割合が都や区の平均を上回っている。知識・技能の定着は見られるが、思考・判断・表現の正答率は全国と同様に低い。

【国語】
都や全国と比べてC層の生徒の割合が多い。「文章と図、情報と情報を結び付けて内容を解釈すること」の正答率が都、全国と比べて10%程低い。

《授業改善のポイント》

【数学】
習熟度別少人数指導では、C・D層の生徒にもB層の生徒に合わせた授業を行うことで学習内容の定着を図る。また、図形の証明の記述指導など、知識・技能を活用して生徒が表現する場を積極的に設けて思考・判断・表現の定着を図る。

【国語】
C層の生徒をB層に引き上げるため、授業内で図やグラフを用いた文章を積極的に用いて、正確に読み取る力を高めていきたい。また「書くこと」の正答率を伸ばすため、論述の時間を確保し、授業改善に取り組む。

《チャートの特徴》

国語平均正答率と数学平均正答率は全国の基準を上回っている。一方で、基本的な生活習慣の肯定的回答率は、全国平均との差が最も大きい。具体的に見ると、「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っていますか」という質問の肯定的回答率が低くなっている。

《家庭・地域への働きかけ》

基本的な生活習慣の確立について、学活や三者面談、生活指導だより、ほけんだよりを通じて発信していく。